

---

## 第6話 集結の絆

フェニックス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

第6話 集結の絆

### 【Nコード】

N8345Y

### 【作者名】

フェニックス

### 【あらすじ】

ミサト、ボスコはショットガンナーの力の前に朽ち果てた。黄泉の世界で出会ったのはジャック、パトレシアだった。

## 集結の絆

「霸王！魔法円陣を貼れ！出立の時だ！」「オオ！仁王！馬車の用意を。黄泉帰りの馬、ペガサスを召喚しろ！」「良いか、ジャック・ギヤザリス。明朝迄に戻れ。ペガサスが迎えに来る。何があってもだ」「アア、わかってる。皆、良いか？」ミサト、パトレシア、ボスコ、マリアは頷く。「衝撃に備えろ。死者と違い、肉体は圧力が架かる。一時的に黄泉で起こった事が忘れる症状もある。気を付けて帰るんだぞ」

五人は再び生命の星に降臨した。たった1日。

ビューン

次の瞬間、五人はウエストホースにいた。ジャックは渡された数珠を見る。「早くアドニスに渡さなくては」「そうね。アタイはレオのシヨットガンの覚醒」マリアの決意は絶対だった。「早く、探しましょうよ。アタイもレオに会わなきゃいけないんだ。世話になつた礼をしなくては。ボスコあんたは？」「オラか？オラは田舎に帰るだ。皆に無事だと伝えるだ」「決まったな。おいらはジャックと一緒にだ。じゃあ、皆、明日会おう」「そうだな。別行動だな。ミサ

ト、ボスコ、マリア。無事を祈る。ジャーな。行くぞパトレシア！  
ハアツ！」ジャックは颯爽とアドニスの方に急いだ。「行くわよ！  
ミサト」「ハイ。先輩！」ミサトとマリアはフワリと浮き空を走っ  
た。「オラも」ボスコは故郷に向け、飛んだ。

「アレは？レオ？レオ・バレッタじゃない？船でこの大陸を出よう  
としている。マリアさん。私が引き止めます。マリアさんはシヨッ  
トガンの覚醒を！」「任せたわよ。ミサト」ミサトは急降下しレオ  
の方に向かった。

「マリアさん。……………名残惜しいがお別れです。俺には背負いきれ  
ません。ただの男ですから」「ハイ！レオ・バレッタ。元気？」  
「ミ……………ミサト？剣ミサトじゃないか？お前……………」「嫌だね  
え。化け物でも見たのかい？その面は？」「……………生きていたのか  
？」「イイヤ。死んでたさ。黄泉の世界から帰って来たのさ。マリ  
アさんも一緒にだよ。元気だったかい？」「良かった。俺は……………  
俺には……………無理だ。なあ、ミサト。そうだろう？ただの人間が土  
の神ライダーの継承者だなんて。俺は、出ていくさ。居ない方が幸  
せな時がある。今がその時だ。すまないな」「バカ言っちゃいけない  
いよ！アタイやボスコ、マリアさんが犬死にしたみたいじゃないか  
？勝手だよ！あんたは！アタイのあこがれたレオ・バレッタ様はど  
うしちまつたんだい？上層部が介入したらお役御免かい？冗談じゃ  
無いね！マリアさんもシヨットガンの覚醒に来たんだ！あんたのシ  
ヨットガンにマリアさんの意志、チャンクのリンクアップ！その全  
てが神々の力のはずだよ！あんたが背負うなんてガラじゃない！1

億と数千万億光年早いね。良いかいレオ！あんたの戦いには仲間の思いが詰まっている。今まで逮捕した盗賊の方々やら、マリアさんやら、チャंकやら。出ていくにしてもそれは忘れるな」「ミサト…………… やつと目が覚めたよ。俺には背負いきれない過去がある。戻れない道がある。その全てが奴に繋がるなら、俺はあの憎きシヨットガンナーを叩き潰す！そうだな？」「アア。そうさ。やつと目覚めたか？継承者よ。絆こそが道になり、絆こそが背負う過去になる。それがわかった上で出ていけ」「…………… 船長さん。船を戻してくれ。俺には会わなきゃいけない奴がいる。あの大陸に置いてきた絆が俺を呼ぶ。太古の昔の神々が。土の神ライドーが。聖騎士ロキの生まれ変わりが。…………… アインシャーク三世。すまない。後れ馳せながら加勢する。この出来損ないの継承者が」

「懐かしい空気だね。チャंक」「アア。マリア。よくぞ帰って来た。さあ、時間が無い。彼のシヨットガンに意志を与えてくれ」

「アドニス。久しぶりだな。火の神インフェルノの使いアドニスよ。黄泉の土産にこんな物を貰ってくれ」

続く

## 集結の絆 その2

マリアは自分の墓碑にいた。「惨めなもんだねえ。墓碑がアタイの宿敵の持ち物なんて。さてと覚醒させるかね。奴の呪縛を解かなくてはね」「……………マリア？マリアじゃないか？」「ヨツ。チャンク。元気そうじゃないか？」「まあな。何の用だ？」「このシヨットガンはまだ覚醒していない。神々の力はこんなもんじゃないさ。奴の呪縛に捕らわれている。兵器の鳴き声のアタイには聞こえたのさ。で、黄泉の世界から駆けつけた。呪縛を解きにね」「そうか……………残念だったな。奴は大陸を出たさ」「フフ。アタイだけじゃないんだよ。剣ミサトもいるさ。彼女がなんとかしてるさ」「で、その……………元、持ち主だが……………」「シヨットガンナーだろ？奴は黄泉の掟を破った。アタイらは、1日しか復活できないんだ。明日になれば帰らなきゃいけないんだ。その掟を破ったのがシヨットガンナーさ」「つまり奴に帰る場所は無い。追いつまれているのは奴か」「そうみたいだね。時間が無いんだ。呪解させて貰うよ」マリアはシヨットガンにダイブした。

「シヨットガンよ。土の神ライダーの継承者に手を貸して欲しい。レオ・バレッタに」「誰だ！我が中に入って来る異界の者は？」「アタイはマリア。お前に殺された者さ」「ホウ。確か3年ほど前に一度だけ会ったな。で、何の用だ」「今一度力が借りたい。あの時の様に。今の奴を倒すにはこの兵器しか無いのだ。頼む。シヨットガンよ。我々の絆を信じて欲しい」「私は計っていた。遠い神々の星より、生命の可能性を。生命よ。なんじらは弱い。だが、それで良い。弱いからこそ可能性に充ちているのだ。弱いからこそ、継承

者に相応しいのだ。貴公等の絆。それが私の目覚めならそれで良い。だが、忘れるな。力を継承する者のさだめを。世界を滅ぼす力も、救う力も貴公等のさだめなのだ。しかと受け止めよ。我が力を！」

カーン！

ショットガンが輝き出す。

「オオ。この輝きは！マリア！」「大丈夫だ。こいつの覚醒は終わった。後は……………」「……………マリア。ありがとう。時間が無いんだっただな。お前らは。最後に言わせてくれ。俺はお前を……………」  
「マリア！生きていたのか？」レオ・バレッタが走ってきた。ミサトと一緒に。「アア。見せてくれないか？アンタラのリンクアップを。土の神ライドーの継承者さん」「ヨシ。チャンク！リンクアップするぞ！俺とお前。それにマリアが覚醒してくれたショットガン」「レオ。よくぞ帰って来た。ヨシ！行くぞ！アーマードバレッタ！俺と同化しろ！」レオはチャンクの対角線に立った。空の青と二人の絆がリンクする。

カーン！

レオは鎧を纏った。マリアはショットガンを投げる。

クルクルクルツ……………ガツキーン！

「レオ。良い調子だ」チャンクはレオの精神に話しかけた。「レオ・バレッタ。土の神ライダーを継ぐものよ。我が名はフォボス。ショットガンの主。これより貴公等に加勢する。忘れるな。レオ・バレッタ。お前らが辛い時も、楽しい時も、喜怒哀楽の全てを、この星を越えた神々の星より見ていると。貴公等が道を誤った時、破滅の時が動き出すと。男、フォボス。確かにお前に貸したぞ。この神々の力を」フォボスはレオの精神に話しかけた。「チャンク。さつき言いかけた話したが、お前はマリアを愛していたと。何故、言わなかった？」「ケツ……………照れくせえだけだ」「フォボス。だからチャンクは結婚出来ないんだ。祝いの準備はできているんだがな」「レオ！余計な話しはするな！」「ハツハツハツ……………まあ良い。片想いも力になる。そんな奴に限って恋愛観がぶれているのさ」「そうか？……………チャンク。そうだったのか？」「……………そうだ。弱ったなあ。フォボス。お前は俺の精神にもリンクできるのか？」「もちろんんだ」

「マリアさん。綺麗ですね」「だろ？アタイもチャンクとリンク出来るが、悪いがアッチの方が綺麗だ。これで休めそうだな」「ですね。アノ……………マリアさん。向こうに行ったら一緒に暮らしませ



ん？」「悪く無いね。バラバラに暮らしたらアタイのレオを捕られそうだし。こんな可愛いお嬢さんなんだから。あんたは」「へへへ。わかつちやいました？負けませんよ。競争相手が多いほど恋愛は楽しい。そうですね。オバチャン」「オバ……………オバチャン？失礼だね！ミサト！待ちな！」

「アーマードバレッタ！これよりお前を保安官として就任させる。バッチを受け取れ！餞別だ！」「……………ボス。ありがとうございませす」「急げ！二人とも！上層部が武力介入した大陸は支配下になるんだ！急いでシヨットガンナーを！アインシャーク三世とアドニスと共に葬るのだ！彼等が介入したら焼け野原になる！」「なんだって！急ごうチャンク。リンクアップの時間は三分しか無いんだ！」「誰が三分と決めた？あくまでも私が完全に覚醒していない時の話だ。覚醒したフォボスは永遠。君達の意識次第で永遠なのだ」「……………確かに。プレッシャーがあの時より楽だ。まるで繋がったみたい」「……………そうだな。俺もそう思った。あの時より楽だと……………導いてくれたんだ。神々の力が。俺達のリンクアップを」

一方、その頃、ジャック・ギャザリスとパトレシアもアドニスに合流しようとしていた。

続く

## 集結の絆 その3

パトレシアとジャック・ギャザリスは一路、飛空艇ジュブナイルへ走っていた。

「あれは？ジャックか？ジャック・ギャザリス。邪神の欠片を無くした奴。ジュブナイルへ向かっている」アドニスはいんしゃーク三世に連絡した。「はいんしゃーク。気をつける！奴がジュブナイルへ向かっている」「わかっている。またしても争う気か？様子を見よう」忌まわしき悪夢が甦る。浮游城を崩壊させた悪夢が。

彼は過去のジャック・ギャザリスとは違った。仲間として参戦に来たのだった。凡字の数珠を持って彼は1日だけ帰って来た。

「はいんしゃーク三世。過去は忘れられぬ。だから尊いのだ。どんな過去も拭い去れぬ。だから気高くなれるのだ。尊さ、気高さ、それが生命の可能性の器と言つのならそれで良い。だから戻って来たのだ。黄泉の果てより」「久しぶりだな。ジャック」「はいんしゃーク。散歩か？……………すまなかつたな。ジュブナイルか？こいつが浮游城の秘宝。太古の飛空艇。ガントレットオーブ。それに神の遣いアドニス」「貴様！何を考えている！」「アドニス。これを」「なんだ？この数珠は？」「凡字の数珠。霸王、仁王に託された異世界の扉」「異世界の扉？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8345y/>

---

第6話 集結の絆

2011年11月29日23時51分発行